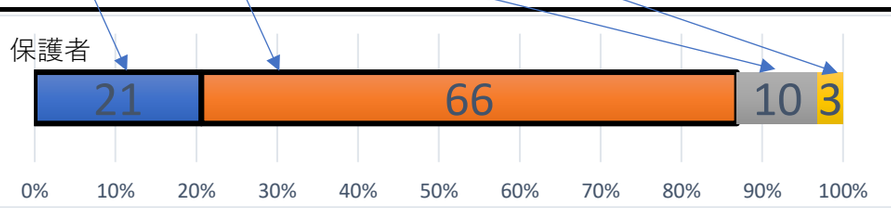
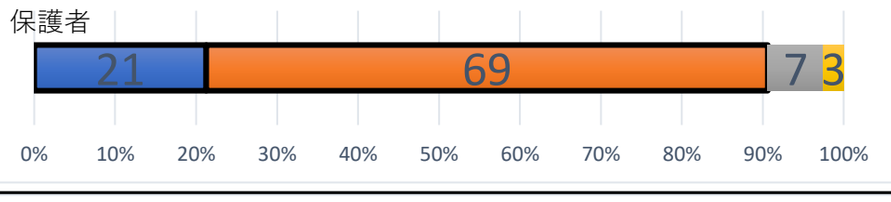
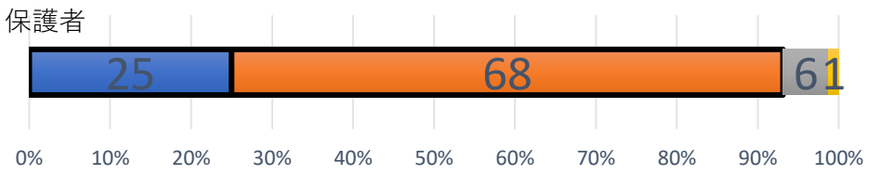
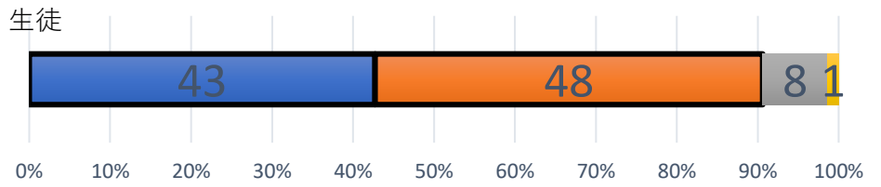
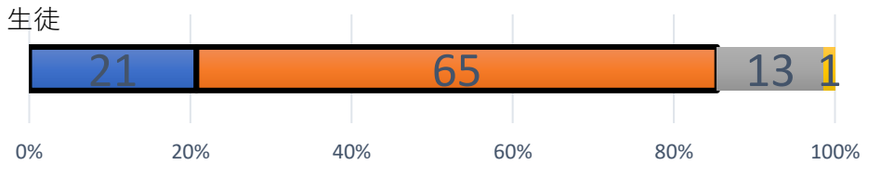
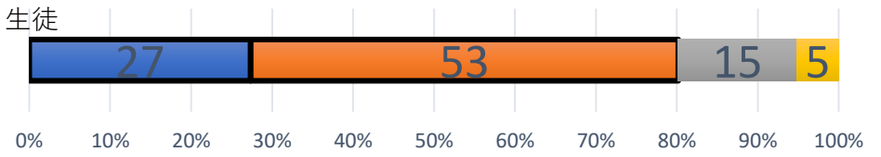
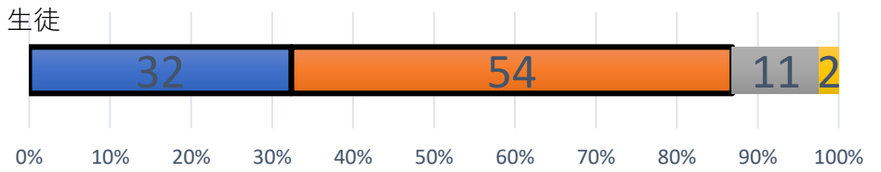
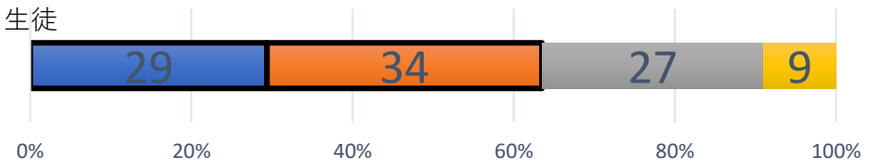
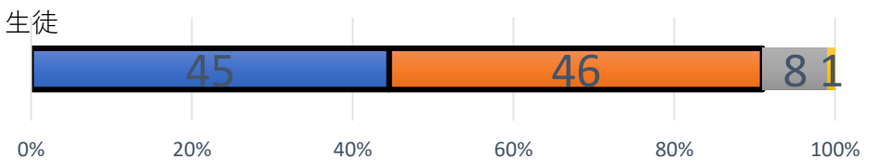
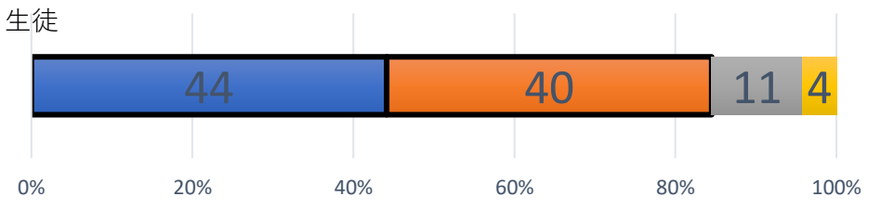
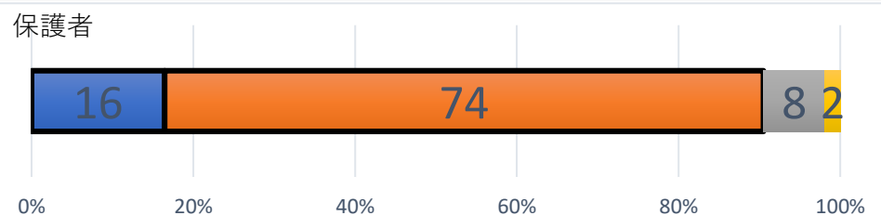
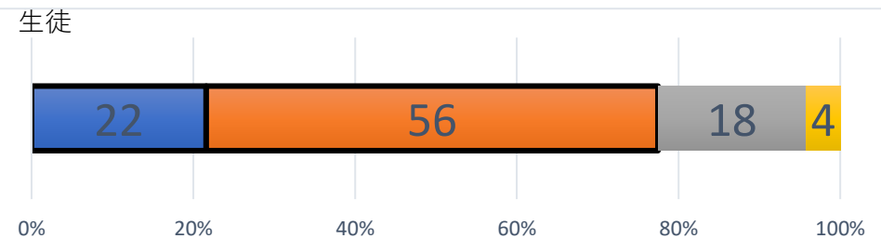
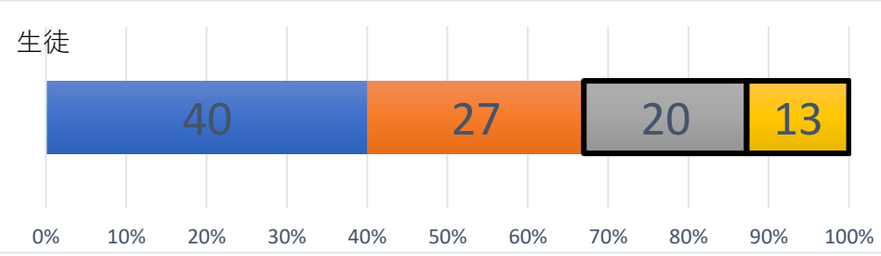
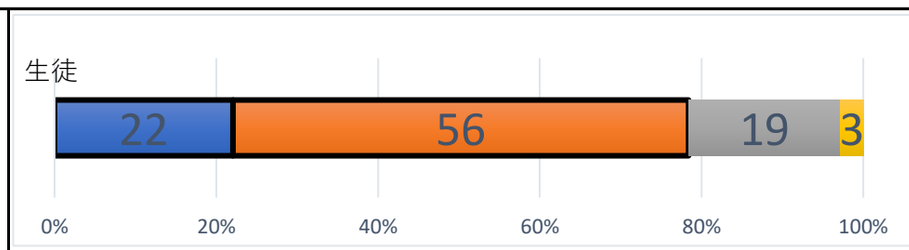
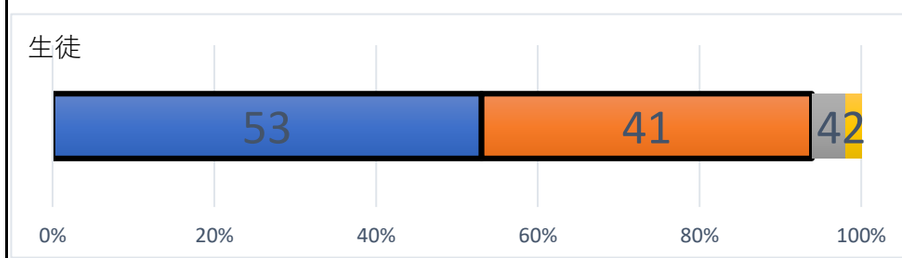
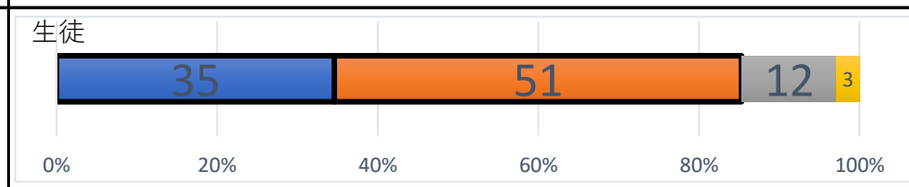
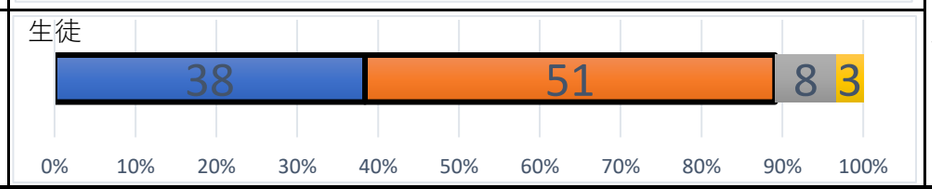
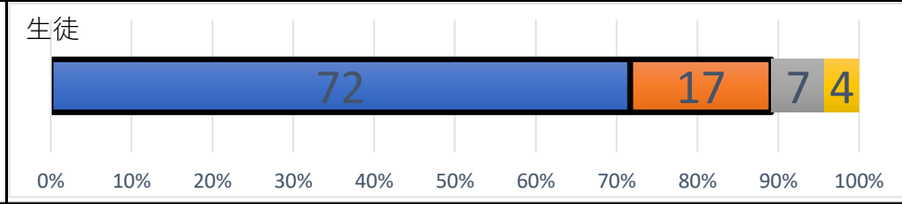
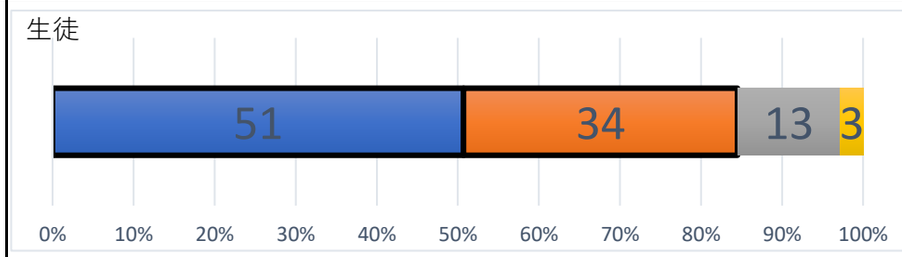
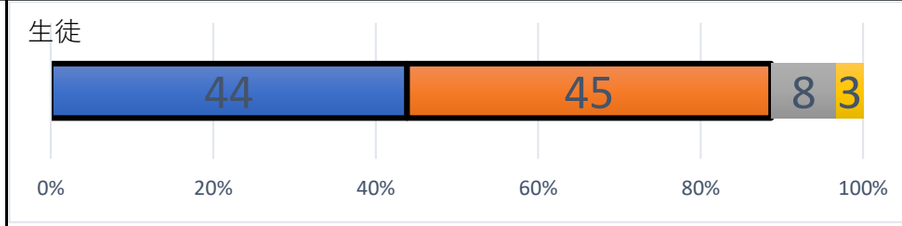
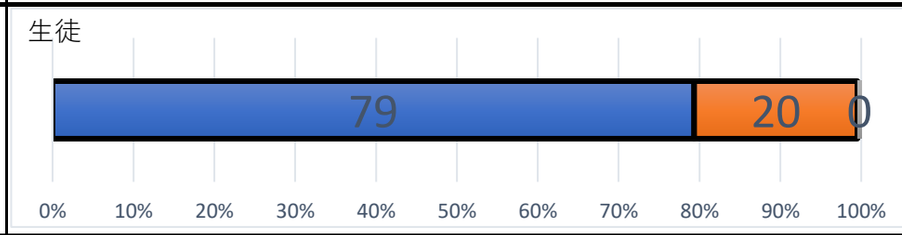
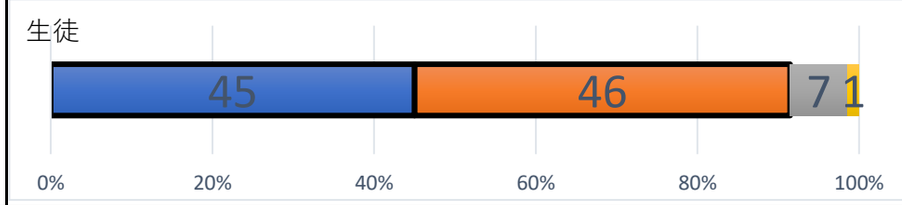
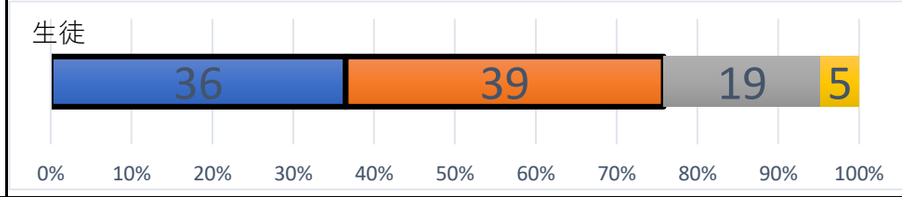
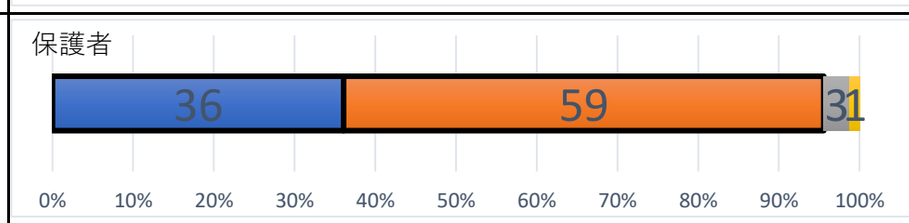
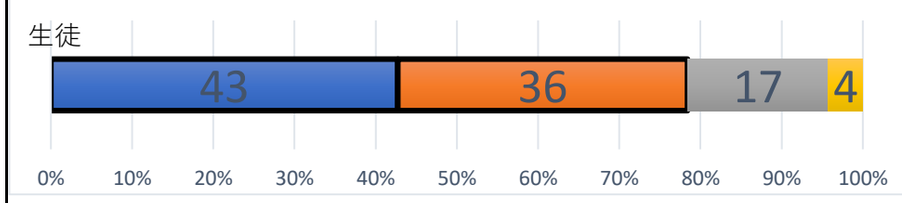
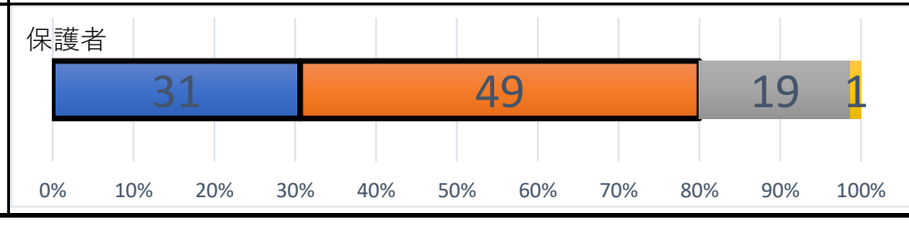
令和6年度　館林市立第二中学校　学校評価一覧表（第1回）

R6.7.31現在

※表中およびグラフ中の数値の単位は「％」　表中の数値は「とてもそう思う」「そう思う」の合計

評価対象	評価項目	具体的数値項目	保護者	生徒	自己評価	グラフは左から「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」	改善策
Ⅰ 保護者等との連携	学校は、連絡や生徒の様子等を保護者にきめ細かく伝え、理解を得ている。	○学校や生徒の様子が分かると感じている**保護者が８０％以上**。	**86.7**		A	保護者 	○学年通信や配信アプリＨｏｍｅ＆Ｓｃｈｏｏｌでの情報提供のほか、学校だより等学校での様子をウェブページにアップしていきます。また、学校からのたよりは、必ず保護者に見せるように指導します。
	学校は保護者が連絡や相談をしやすいと感じる雰囲気づくりに努めている。	○学校は連絡や相談がしやすいと感じている**保護者が８０％以上**。	**90.6**		A	保護者 	○日々の子ども一人一人の小さな変化を見逃さず、学校での様子を詳細に家庭に伝えていきます。家庭と学校とで連携する体制をつくって、子どもの健やかな成長に尽力します。
	学校は地域の人たちや関係機関と連携し、教育活動の充実に努めている。	○学校は地域の人たちや関係機関と連携し、教育活動の充実を図っていると答えている**保護者が８０％以上**。 ○学校は、生徒が地域に貢献する活動や地域の方々と交流する活動に取り組み、その意義を感じている。と答えている**生徒が８０％以上**。	**93.1**	**90.6**	A	保護者  生徒 	○ＣＳの機能を十分に生かせるように、保護者や地域の方々に、ＣＳについてお便りやウェブページ等で周知徹底をしていきます。また、関係機関と連携を図りながら、地域の人材を活用した学習活動を積極的に取り入れていきます。
Ⅱ 確かな学力	学校は、生徒が分かり、満足感や達成感を味わえる授業づくりを行っている。	○授業が分かると感じている**生徒が８０％以上**。	57.9	**85.4**	A	生徒 	○単元を通して、学習への達成感や満足感を味わうことができるような授業づくりに今後とも努めていきます。
		○授業が楽しいと感じている**生徒が８０％以上**。		**80.2**	A	生徒 	○何を学んだか、どのように学んだかを理解できるように、本時の学習内容を振り返るとともに、前時や次時とのつながりについても考えさせていきます。
	学校は、生徒の学習への意欲を高めることができるような工夫をしている。	○「探究的な活動を通して、授業に意欲的に取り組むことができた」と答えた**生徒が８０％以上**。		**86.9**	A	生徒 	○校内研修等を通じて、各教科で取り入れている探究的な活動を職員間で共有することで、生徒がより意欲的に取り組めるような授業づくりの工夫について、引き続き考えていきます。
	学校は、生徒に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	○１日あたりの家庭学習（塾等を含める）の時間が、１時間以上である**生徒が８０％以上**。	44.7	**63.5**	C	生徒 	○各教科において家庭学習の課題をさらに充実させていきます。 ○学級活動等の時間を使って、計画的な家庭学習の必要性を伝えていきます。家庭への啓発として学力向上通信も発行していきます。
Ⅲ 豊かな心	学校は、生徒が自分から進んであいさつできるよう適切に指導している。	○自分から進んでしっかりとしたあいさつができる**生徒が８０％以上**。	83.1	**91**	A	生徒 	○教師による生徒への声かけや、学活・道徳等であいさつの意義を教えることにより、進んであいさつができるようになってきました。さらに気持ちのよいあいさつができるように引き続き、教師から元気に爽やかな模範となるあいさつに日々取り組んでいきます。
	学校は、いじめのない学校づくりを推進している。	○学校生活が楽しいと感じている**生徒が８０％以上**。	89.3	**84.5**	A	生徒 	○個々の生徒の合唱コンクールや学級での活動、部活動を通して、生徒役割を明確にし、それを成し遂げ、自己有用感を味わえるようにするための支援、声かけを行います。また、生徒会と連携して学年の枠を越えて交流できる機会を設けていきます。
		○学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う**生徒・保護者が８０％以上**。	**90.5**	**77.5**	B	保護者  生徒 	○未然防止策として、生徒主体のいじめ防止の活動を生徒会を中心に取り組みます。 ○道徳や学活、人権週間などを通して、いじめについて考える場を設けて、いじめは許されない行為だということを引き続き指導していきます。 ○本校のいじめ防止基本方針を常に検証しながら早期発見・早期対応を全職員で心がけ、報告・連絡・相談を欠かさずに行い、生徒、保護者に寄り添う指導をします。 ○校内研修を充実させ、各専門機関との繋がり方など教職員としての研鑽を積んでいきます。
		○ｹｰﾀｲ、ｽﾏﾎ、ｹﾞｰﾑ機等を毎日、午後１０時以降学習以外で使っていない**生徒が８０％以上**。	50.6	**33**	E	生徒 	○学活や道徳等でｹｰﾀｲ、ｽﾏﾎの使い方について提案を行っていきます。近隣の小学校や警察署、企業等と連携を取り、使い方の指導や、使いすぎによる日常生活への影響について小中で連携した指導を行っていきます。

	学校は、生徒が自己有用感を高めることができるような支援を適宜行っている。	○学校生活において自分の役割果たし、みんなから認められるような自己有用感がもてている**生徒が８０％以上**。		**78.4**	B		○自己有用感をもてている生徒は増えてきています。生徒の活躍の場をつくり、賞賛したり、認めたり、励ましたりすることで、さらに自己有用感を高められるよう支援していきます。
Ⅳ 活動の意欲	学校は、生徒が行事や部活動に対して、主体的に活動できるよう工夫している。	○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している**生徒が８０％以上**。	91.8	**93.9**	A		○学校行事は、生徒たちの活動意欲を向上させられるように、生徒主体で計画・実行していきます。学校行事や部活動の意義や目的を伝え、積極的に参加できる生徒の育成に努 めます。
	学校は、生徒が協力して清掃や係、当番活動に取り組むよう努めている。	○清掃や係、当番活動に友達と協力して進んで取り組んでいる**生徒が８０％以上**。		**清掃 85.3**	A		○学活や道徳等で集団生活の中での自分の仕事の責任ついて考える場を設けたり、日常の清掃活動等に進んで取り組んでいる生徒の姿を認め、声かけを行ったりしていきます。
				係当番 89.1	A		
Ⅴ 健康・体力	学校は、生徒が毎日朝食や適切な睡眠をとって登校できるよう具体的な働きかけを行っている。	○毎日必ず朝食をとっている**生徒が９０％以上**。	91.2	**89.2**	B		○掲示物や保健だより等で、朝食の大切さについて啓発をしていきます。感染症や熱中症の予防の為にも規則正しい生活で免疫力を高めることの重要性を理解し、実践していけるよう引き続き、発達段階に応じた生活指導を続けていきます。
		○週平均1日６時間以上の睡眠をとっている**生徒が９０％以上**。	83.6	**84.5**	B		○体調不良で来室する生徒の中には、睡眠不足が原因と考えられる者もおり、睡眠の大切さについてその都度個別の指導を行っていきます。また、質の良い睡眠がとれるよう、睡眠時の環境の整備や睡眠前にスマートフォンなどの使用を控えることの重要性を保健だよりや保健委員会の取り組みを通して啓発していきます。
	学校は、進んで体力の向上を図ろうとする生徒の育成に努めている。	○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている**生徒が９０％以上**。		**88.7**	B		○体力向上を目指したい意識は多くの生徒がもっていて、朝ランに参加する生徒も多い状況です。しかし、継続して取り組めているとは言えないのが現状です。そのために、努力を評価して自信をもたせていきます。自己有用感の味わえる体力づくりへの取り組みにしていきます。
Ⅵ 安全確保	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している**生徒が１００％**。	98.9	**99.5**	B		○各学級の短学活や集会で「自転車に乗るときのヘルメット着用が義務化された」という情報に加え、何のために着用するのかを伝えていきます。
		○災害や、火災発生時の避難の仕方に関する態度を身に付けている**生徒が８０％以上**。		**91.5**	A		○地震や水害等の自然災害、火災発生、不審者対応などの様々な状況に対応できるように、引き続き避難訓練を行い、状況によって避難経路が異なることや、自分で避難経路を考えることが大切であると伝えていきます。
	学校は、家庭や地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを適切に行っている。	○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険箇所を知っている**生徒が８０％以上**。		**75.9**	B		○フロアに掲示してある安全マップを再度確認するよう促したり、新たに入ってきた情報を随時生徒へ伝えたりし、危険箇所について呼びかけていきます。
		○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている**保護者が８０％以上**。	**95.6**		A		○引き続き、定期テスト期間の登下校の交通指導を行ったり、正しい自転車の乗り方ができている生徒を賞賛したりしていきます。
Ⅶ 進路・生き方	学校は、生徒の主体的な進路決定に向け、夢や希望をはぐくむキャリア教育の充実を図っている。	○自分の将来への夢や希望をもっている**生徒が８０％以上**。	64.8	**78.4**	B		○１年生は職業調べ、２年生は９月の職場体験活動などを通して、自己の将来について考え、進路について前向きに考える機会を増やします。
		○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている**家庭が８０％以上**。	**80**	75	B		○３年生は年２回の教育相談や１０月に保護者対象の進路説明会を行ったり、進路通信を定期的に発行したりすることで、家庭内で進路について具体的に話し合えるようにしていきます。